

「青年イエス」

マルコ1:9～15

- 挨拶—おようございます。ゴールデンウィーク青年キャンプのためにお祈り下さり、本当にありがとうございました。今回、キャンプが実施できたことは本当に神様の恵みであり、またみなさまのお祈りのおかげだと思っています。



●キャンプの報告

最初にスライドをお見せしながらキャンプの様子を紹介させていただきます。



5/3～5/5 ハイビーエーキャンプ場

今回オンラインでの参加者を含め総勢40名以上の青年がキャンプに参加してくれました。場所は千葉県外房にあります、Hi-b.a.キャンプ場で3日間のキャンプが行われました。



川口竜太郎先生

キャンプのメッセンジャーとして川口竜太郎先生をお迎えしました。Hi-b.a.は高校生に伝道するための団体で、川口竜太郎先生はその代表スタッフをつとめておられる先生です。



食べる

キャンプの楽しみはまずおいしい食事です。コロナ対策のためにお風呂と食事以外はほとんどマスクをつけっぱなしでした。ですから、食事の時はみんなの素顔が見られる貴重な場面です



遊ぶ

キャンプの楽しみは様々な遊びやアクティビティです。キャンプファイヤーやいろんなスポーツをしたり、海で波とたわむれたりして、思いっきり遊びました。



学ぶ

キャンプのメインディッシュは魂のごちそうをいただくことです。御言葉から学び、祈りを実践し、信仰が大きく養われる時です。川口竜太郎先生は4回のメッセージを通して、大切な信仰の原則を私たちに力強く語ってくださいました。

●証し

では、ここで青年キャンプ参加者の証しをお聞きください。

- 第1礼拝 斎藤智子
- 第2礼拝 大下ありさ
- 第3礼拝 近藤いずみ

●説教

ありがとうございました。キャンプのすばらしい恵みが、みなさんに伝わったでしょうか。今日はキャンプの報告礼拝であると同時に青年を覚える礼拝です。青年を覚えつつ、今日も御言葉から学んで行きたいと思います。

●聖書朗読 マルコ 1:9～15(新改訳 2017)

- 1:9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレからやって来て、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けられた。
- 1:10 イエスは、水の中から上がるとすぐに、天が裂けて御霊が鳩のようにご自分に降って来るのをご覧になった。
- 1:11 すると天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」
- 1:12 それからすぐに、御霊はイエスを荒野に追いやられた。
- 1:13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの試みを受けられた。イエスは野の獣とともにおられ、御使いたちが仕えていた。
- 1:14 ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。
- 1:15 「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

●青年イエス

今、お読みした聖書箇所はイエス・キリストが公生涯を始められた、まさにその最初の出来事に関して記されたところであります。ここを読み解いていくにあたって、まず確認しておきたいことがあります。それは、イエス・キリストが青年であったということであります。

福音書記者のルカが記したところによれば、キリストの公生涯はおよそ30歳の時に始められたものであります。それから約3年半に渡ってキリストは、メシアとしての活動を続けられ、そして十字架において地上の生涯を閉じられたことは、みなさんも、もうすでによくご存じのことです。

そこにおいて間違いなく言えることは、イエス・キリストが青年として公生涯を始められ、また青年として最期を迎えられたということなのです。

子どもや少年ではありません。また、壮年というのでもありませんでした

青年の定義は今も昔も大きく変わってはいないのだろうと思いますけど、青年とは独身の男女を指す言葉でありまして、その意味においてキリストは間違いなく青年であったということが言えるのです。つまりキリストの公生涯は、青年として始まり、青年として全うされたものであったという事です。

そういうわけで、私たちは今日、この青年イエスの姿から共に学んでまいりたいと願っています

●模範

1:9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレからやって来て、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けられた。

イエス様がなぜバプテスマをお受けになったのか？そもそも、イエス様にはバプテスマを受ける必要があったのだろうか、と言われることがあります
みなさんは、そんなことを聞いたり、疑問に思ったことがあるでしょうか？

罪人である人間が罪を認め、罪の赦しを受け、それを信じる信仰の告白としてバプテスマ、洗礼を受ける。これは教会が2000年に渡って、絶えず行ってきた大切な儀式であります。また神を信じた者のしるしであります。

そのバプテスマをキリストであり、メシアでもあるイエスがなぜお受けになったのか
罪のないお方がなぜ洗礼を受ける必要があったのだろうか
それは、ひとえに罪の赦しを信じる全ての者の模範とするためであった
そのように教会は理解し、また信じてきたのであります

トマスアケンピスの書き残した「キリストにならいて」を挙げるまでもなく、確かにイエス様は私たち信仰者の模範を残してくださいました
見えない神が見えるかたちを取られたのがイエス・キリストです
そこに人としての生きざま、生き方、信仰の在り方を私たちは見出すのです

青年たちにとってロールモデルとなる存在ほど重要なものはありません
こんなふう生きてみたい、こんな信仰者になってみたい
そう思わせるような模範が身近にいてくれる。
良いお手本があって、そこに成長する動機が与えられる。

青年キャンプはまさに、そのような良き模範を見出す大変良い機会であります。
一人一人がイエスの模範にならった生き方にチャレンジします。
キャンプはその生き方を学び、実践する機会でもあるのです。

今回、参加した青年たちは、年代も立場も経験も一人一人、違っています。
そして何よりも、みんな多様性に富む、個性的なメンバーばかりです。
そんな青年たちがお互いのふるまいから影響を受け合います

それは一人一人の中に小さなイエス、小さなキリストの姿を見出すからです。
奉仕する姿、寝起きを共にする体験から相手への尊敬を深めます
そして、そこに見習うべきモデルを見出すのです。
見習うべきイエスの姿をお互いの中に発見するのです。

●御霊

1:10 イエスは、水の中から上がるとすぐに、
天が裂けて御霊が鳩のようにご自分に降って来るのをご覧になった。
1:12 それからすぐに、御霊はイエスを荒野に追いやられた。

青年イエスを導いたのは御霊なる神でした。
バプテスマを受けた時にも、また荒野に導かれた時も御霊が働かれました。
イエス・キリストは人として生まれ、人として歩まれました。
そこには当然、肉体を持っているがゆえの限界や制約がありました。

肉体をもっていれば当然疲れを覚えます。肉体はもろく、病気になる時もあります。
そして心は燃えていても肉体が弱さを感じるという時もあるでしょう。
だからこそ、人間には御霊なる神の導きと助けが必要なのです。
それはイエスキリストも例外ではありませんでした。

イエスは青年でした。若さがあり、体力もあつたことでしょう。
しかし、青年イエスも疲れを覚えることがありました。

ヘトヘトになって死んだように眠ってしまう、ということもありました。
心は燃えていても肉体は弱い、と言う言葉を身をもって知っていた、
それが青年イエスでありました。

そんなイエスを導いたものは御霊なる神でありました。
御霊は、あえてイエスを荒野へ導かれられました。そこでは灼熱の太陽にさらされ、
飢えと渇きの中で過ごした後で悪魔の誘惑を受ける事になるのです。

しかし、この荒野の誘惑がイエスを強くしたのもまた事実でありました。
この荒野での経験を通してイエスは救い主としてさらに整えられていきました。

私たちは同じような目を青年たちに向けることができると思うのです。
青年たちを見て、その若さと力に圧倒されることがあるでしょう。
しかし、そんな青年たちも、疲れを覚えることがあります。
肉体の弱さ、限界を感じるものがしばしばあるのです。

青年が厳しい環境の中に置かれる時、弱さを露呈し、助けを必要とする時もあります
悪魔の誘惑を受けることもあれば、自らの失敗に落ち込むこともあるのです
けれども御霊なる神は青年たちを霊肉共に導かれるお方です

イエスがそうであったように、青年もまた御霊の導きを必要としています
自らの弱さや限界を覚える時、誘惑や試練の中ですり減っていくとき、
青年たちもまた御霊に助けられ、御霊に導かれるのです。
そして、その経験が青年たちをさらに成長させ、整えていくことになるのです

●愛されて、喜ばれて

1:11 **すると天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」**

イエスがバプテスマを受けた時に天から声が聞こえたのは決して偶然ではありません
この声に導かれ、この声に支えられイエスはキリストとしての生涯を全うされたのです

自分が愛されていることを実感し、自分が喜ばれているという感覚を持つ。
父なる神によって愛され、喜ばれているという確かな思い
これこそが生涯イエスを支え、導く力であったのではないのでしょうか

この言葉のゆえに、いやこの言葉があったからこそ、
イエスは十字架の苦しみにも向き合うことができた。
そう、私は思うのです。

青年たちもまた、このような言葉を、このような実感を必要としています。
愛されているということは、必要とされているということであり、
喜ばれているということは、認められていることに他なりません。

青年たちは若さを発揮して、新しいことにも果敢に挑戦していきます
彼らは忍耐を示しながら、持てる力を注ぎ出すこともできます。
驚くべき知恵と工夫をこらして、問題を解決することだってあります。

しかし、それらは彼らにとって決して当たり前というわけではありません。
若いんだから、それぐらいやっても当然！ということもありません。

青年が持てる力をあますことなく発揮するために愛されている実感が必要です
人々から自分が喜ばれているという感覚が欠かせません。
誰かに必要とされ、誰かに認められていることなしに
青年たちの活躍はありえないと言って良いでしょう。

「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」

天からの響き渡るこの声によって青年イエスは公生涯を始めて行きました。
父なる神の声によって誘惑を退け、試練を乗り越え、数多くの働きを成し遂げました
そしてこの声があったからこそ、イエスは十字架への道をも歩まれたのです。

青年たちが愛され、喜ばれている教会は本当に幸いな教会です。
神の愛と喜びが彼らを押し出す原動力となっている教会は本当に素晴らしいのです
認められ、必要とされていることが青年たちを生かし
生き生きとした歩みへ導くことを私も心から信じています。

●神の使命

1:14 ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、
神の福音を宣べ伝えて言われた。

1:15 「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

バプテスマのヨハネが逮捕された後に、
まるでバプテスマのヨハネの使命を引き継ぐかのようにして、
青年イエスはガリラヤで、その第一声を挙げたのです。

青年イエスはヨハネが説いた悔い改めの信仰を受け継ぎ、
神の国の福音を宣べ伝える使命に出ていこうとするのです。

イエスが受け継いだものはバプテスマのヨハネの働きだけではありません。
旧約の預言者たちが預言し、約束した希望と将来をも受け継ぎました。
そして青年イエスは、新しい時代を切り開く使命に立ちあがったのです。

教会の青年たちがこれから担っていくものとは何でしょうか？
教会の青年たちが、これから築いていくものとは何でしょうか？
そして彼らが受け継ぐべき教会の宝とは一体どのようなものなのでしょうか？

日本同盟基督教団は長らく宣教の働きに2本の柱を据えてきました。
国内宣教と国外宣教。これらを車の両輪のようにして宣教を進めてきました。
しかし、2010年代に入って、さらにもう1本の柱を加えました。
それは、青少年宣教という柱なのです。

昨年、同盟教団は宣教 130 周年という歴史的な節目を刻みました。
めぐみ教会同様、同盟教団の始まりはアメリカ人宣教師たちの
驚くべき献身といのちがけの伝道によるものでした。

今年、同盟教団が誕生して 131 年、そして土浦めぐみ教会が誕生して 67 年。
これまで教団や教会が築いて来たものは決して小さくありません。
これらの働きを受け継ぐのは果たして一体誰なのでしょう。

イエスは律法を廃棄するためでなく、成就するために来たお方です
旧約の預言を受け継ぎ、新約の時代の扉を開かれたお方です。
不完全な赦しを完全な救いへと変えられたお方です

父なる神は青年イエスに、この働きを担う使命を託されました
私たちもまた、大切な使命を青年たちに託していかなければなりません
新しい時代を築き、将来に希望を灯す光を手渡していかなければなりません

めぐみ教会には、確かにそのような青年たちが数多く存在しているのです
そして私たち教会はこの宝を青年たちに託していくのです
そして同時に私たちは、青年たち自身が教会の宝であることを覚えたいのです。

私たちはこれからも青年宣教をしていかなければならないでしょう
青年が救われ、神と人ともに愛される信仰者となっていくことを
祈っていかなければなりません

けれども、それは教会で働く奉仕者を満たすためにそうするものではありません
大人のため、教会のために青年宣教をするのでもありません
青年たちそのものに価値があり、青年がかけがえのない存在だからそうするのです

私たちは青年たちがよく動き、よく働くから、それに頼りたいのでしょうか？
青年が他の年代を支え、助けてくれる。だから青年が必要なのでしょうか？
そうではありません。青年自身に計り知れない価値があり、青年自身が宝なのです
だからこそ、私たちは青年宣教をしていくのです

めぐみ教会はこれからも青年を覚え、祈り、喜ぶ教会でありたいと思います。
そして青年たちが喜んで信仰生活を送る、そんな教会でありたいと思います。
青年イエスが残した信仰とそれにふさわしい生き方に共になっていきましょう

● 祈り

1:11 すると天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」

神様、青年キャンプを通して大いなる恵みを注いでくださったことを感謝します
3日間のキャンプを通して青年たちはよく食べ、よく遊び、よく交わることができました
同時にみことばに学び、みことばから教えられ、神に祈る者、神を賛美する者として
すばらしい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

今日私たちは青年イエスの姿から学び、教えられました。
青年イエスが残された信仰者の生き方、在り方を知りました。

そして何よりも青年イエスが神様に愛され、
神様に喜ばれている姿を今日、改めて見る事ができました
神に喜ばれ、神を喜んで生きる。そんな生き方を私たちもしていきたいと思えます。

誘惑や試練にさらされる弱い私たちを御霊なる神が導いてくださいますように。
そして神の使命を受け継ぎ、神のわざを担っていく私たちの上に
あなたからの力強い助けと励ましをいただくことが出来ますように。

私たちの救い主となられた主、教会の主、わたしたちの
主イエス・キリストのお名前によってお祈りします。 アーメン

● 祝祷

私たちに信仰の模範を残された主イエス・キリストの恵み、
私たちを愛し、喜んでくださる父なる神の大いなるいつくしみ、
そして私たちの歩みを助け守られる聖霊なる神の導きが
今、神を礼拝する
一人一人の上に
豊かに限りなくありますように。アーメン